

芦屋景観地区

植栽計画ガイドライン

みどり豊かな美しい芦屋の景観をめざして



芦屋市

目 次

はじめに	2
芦屋の植栽計画のあり方	3
概念	3
景観上有効な配置計画	4
デザインコンセプト	4
設計する上での注意ポイント	8
樹種選定に迷ったら	9
地域別	
① 山麓市街地	9
② 中央市街地・新市街地	11
③ 海浜市街地	14
④ 芦屋川沿い	16
玄関・アプローチ周り	17
手のかかりにくい樹種	18
群落で考える樹種	19
日当たり別樹種	20
高木の足元に適している低木・地被	21
常緑樹と落葉樹	22
管理について	23
さいごに	26

はじめに

芦屋の景観は、古くから自然と暮らしが折り合う「風景」や「けしき」として形成されていて、緑豊かな六甲山を背景に、芦屋川の桜や松、宮川のケヤキなど山と海をつなぐ緑の南北軸を中心として市内全域に広がりを見せています。市全体を 1 つの公園と考え、その緑の中に建築物や工作物が調和よくデザインされることで、心地よい「けしき」を形づくっていて、長い時間の中で少しずつ姿を変えながらも、質の高い都市空間づくりが推進されています。

平成 16 年の景観法制定に先がけ、平成 8 年には都市景観条例を制定し、平成 19 年以降は、緑の基本計画や景観計画等の計画を策定するとともに、全市を景観地区に指定するなど、本市が大切にしてきた自然と暮らしが折り合う「風景」を守り、育てるために市民と事業者、行政が協力して取り組んでいます。



通りに面して設けられた緑がつながり、六甲山の緑と呼応して良好な緑豊かな通り景観を形成している。ひとりひとりの緑に対する意識によって良好なまちなみを造ることができる。

鳴尾御影線のけやき並木。新緑、紅葉と季節ごとの景色を見せてくれる。秋にはたくさんの落ち葉が出るが、周辺の住民の皆さんの協力があり、この景観を保つことができる。



芦屋の植栽計画のあり方

概念

美しいまちなみの景観は、緑豊かな樹木草花の存在が必要不可欠です。芦屋市は、六甲山や芦屋川に代表される豊かな自然景観、歴史や文化を背景とした古くからの景観を守るとともに、緑豊かな良好な住環境を創出するよう、市民一人ひとりが景観まちづくりの主役であるという意識をもって、より良い景観を育むことの重要性を「**芦屋市景観形成基本計画**」に提示しています。

建築物を計画し、余ったところに植栽を計画するのではなく、建築物を計画する時点から**植栽配置を含めて計画・設計**することが重要です。先を見据えた配置計画を行うことで、植栽の強剪定を行う必要のない空間を確保し、常に美しい緑を維持することが可能となります。また、緑豊かで良好な住環境を創出するために、まちの中に緑があるのではなく、**緑の中にまちがある**というイメージで計画を行っていただくと芦屋が大切にしてきたまちのイメージと重なります。10年後、20年後と時が経つにつれ、より魅力が増し、個人の財産とまちなみが一体となり、まち全体の価値を高めることに繋がります。ひとつの建物を作るのではなく、まちの**空間をつくり**、自分たちがまちをつくっているのだという意識が大切になります。

●「景観計画 抜粋」

土地や建築物は個人の財産だが、まちなみとして自然条件と折り合って形成される美しい景観は市民共有の財産。市民共有の財産である美しい景観を守り、育てていくためには、所有者の権利すべてがそのまますべて認められるものではない。

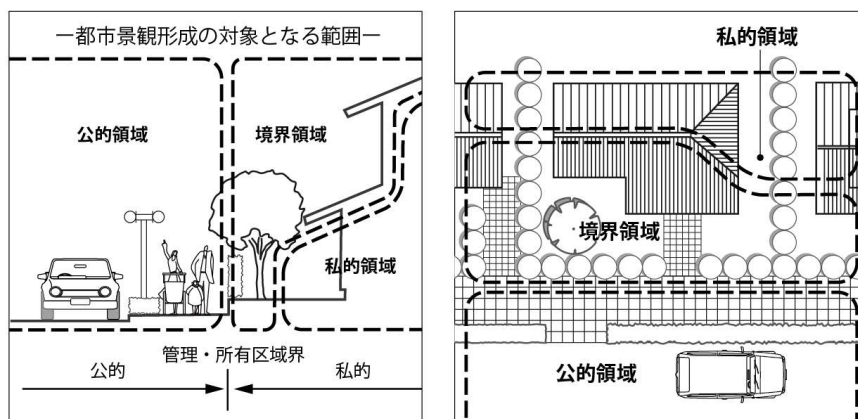
目印になるような一本の木であっても、住宅地の街角に立っているのか、緑豊かな林の中に立つのか、その木が立っている場所の条件によって木の印象は異なり、「けしき」は異なるものとなります。「けしき」には、背景となる緑の山並み、川の流れ、道のかたち、庭木や生け垣、小さな店、そして家々などが相互に関係しあって、地域ごとに異なる特徴を見ることができます。こうした景観を構成する要素とその相互関係が場所ごとに異なることにより、美しい景観、落ち着いた景観、乱雑な景観、賑やかな景観が生まれます。

建築物はこうした構成要素のひとつであり、そのデザインは、場所ごとの関係性のなかで評価されます。ひとつの建築物だけを見ればよくデザインされているとしても、それが建つ場所の景観を特徴づける関係性に合わない、まちなみのまとまりを阻害することになります。

景観上有効な配置計画

都市景観形成における都市空間の領域構成は道路や河川などの**公的領域**、公的領域に接する建築物の屋根・外壁・前庭・塀などの**境界領域**、敷地内空間のうち視覚的に外部から見えない部分や屋内空間からなる**私的領域**の三つに区分できます。

都市景観形成を図るうえで、公的領域はもちろんのこと、境界領域もその公共性は非常に高いものとなっています。このため、都市景観形成の対象範囲は公的領域に境界領域を含めて考えるものとします。



境界領域での樹木配置が景観上有効です。特に、街角や通りの突き当りなど視線の集まりやすい場所に、植栽を配置することが景観上有効であるため、樹木を配置することが必須となります。塀の中で、居住者からしか見えない、またはほぼ見えない私的領域での植栽は、景観上有効とは言えません。

デザインコンセプト（植栽の役割・手法）

建物と植栽のコンセプト（テイスト）や、建物の外装材やデザインに合わせて樹種や樹形、葉色を選ぶことが植栽を含めた設計となります。

本来は、まちなみと建物のコンセプトを合わせ、まちなみと一体となった建物を建築することが望ましいですが、まちなみと建物のコンセプトが異なる場合、植栽は建物をまちなみに調和させる大切な要素となります。



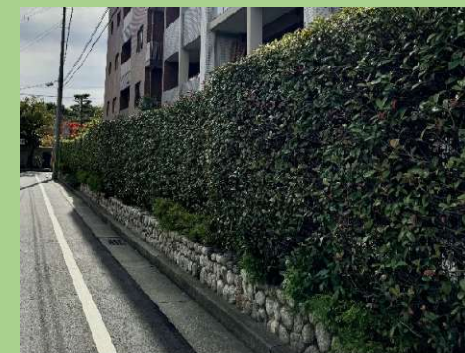
デザイン性のある塀と高さの異なる植栽が
リズミカルな印象を与え、建物の圧迫感
を軽減することができる



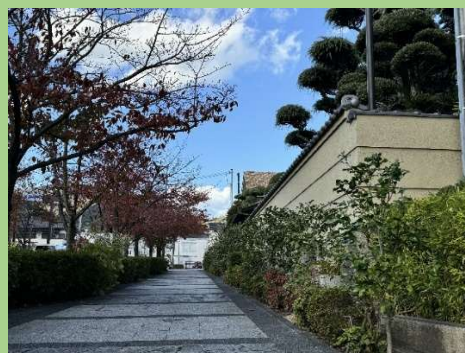
通りに共通する樹木を配置することで
通りに共通性を持たせる樹木の配置



壁面を後退させ、足元に石、低木、高木、
生垣とすることで奥行きのある植栽帯を作
ることができる



玉石積みと密度の高い生垣を組み合わせ
て建物の圧迫感を軽減させている



街路樹に合わせて塀の前に植栽を設けるこ
とで通りへの一体感を生み出し、塀の奥か
ら見える植栽が建築物と塀をつなぐ役割と
なっている



敷地をまたいで、連続した厚みのある植栽
が通りに潤いを与えている

以下は、コンセプトを考える上での参考にしてください。

1. 木を植えることはなぜ大切なのか。

芦屋市は「まちの中の緑」をつくることではなく、「緑の中のまち」をつくることを目指して、これまでずっと緑を大切にしてきました。敷地条件によるので一概には言えませんが、敷地の目立つところ（アプローチ付近）に高さの違うものを組み合わせて植えましょう。敷地が角地の場合には、角地にも植えましょう。

2. 本数をあまり植えることができない。

高さの違う木の組み合わせや、株立がおすすめです。株立ちは、剪定したときに樹形が保ちやすいです。

3. 建物の印象を和らげたい。

葉の幅が広い広葉樹を中心に建物の角を隠すように配置し、高さや位置をランダムに配置すると印象が和らぎます。

4. まちなみに調和している建物の印象を強調したい。

針葉樹を中心に配置すると、直線的なイメージが強調され硬質な印象になります。その他にも、高さや間隔をそろえ、左右対称に配置すると建物の印象が強調されます。

5. 建物のボリュームを操作したい。

2階建ての一戸建ての住宅の場合、樹高を6mよりも高くすると建物が小さく、低くすると建物を高く感じさせることができます。

6. 緑のボリュームを感じさせたい。

目線の高さにボリュームのある緑を持ってくると、緑のボリュームを感じやすくなります。

7. 自然な緑を感じさせたい。

混植（樹種や高低、時期など）や不規則な配置を行うことで、作られた緑ではなく自然な緑を感じることができます。また、混植にすることで、どの季節でも楽しみ四季を感じることができます。

8. 落葉樹と常緑樹の良いバランスを知りたい。

落葉樹8：常緑樹2～落葉樹6：常緑樹4くらいがオススメです。

9. 落葉樹は葉が落ちて大変だから、常緑樹？

落葉樹は葉が落ち掃除が大変な印象がありますが、常緑樹も一年中葉が落ちます。落葉樹は四季を感じることができ、冬には日差しを取り入れやすくしてくれます。常緑樹は一年中緑を楽しむことができます。

10. 駐車場や駐輪場を沿道に設けると、植栽のスペースがなくなる。

駐車場なども大切な施設ですが、それだけでは建物も含め、計画全体が無機質な印象になります。結果として、緑豊かな芦屋のまちなみの印象を変えてしまうことになり、まちの価値、独自性を損なっていきます。お住まいの方にとって必要な施設と建物、植栽を一体的に計画できるかどうか、設計者の腕の見せ所です。

11. スペースが限られているのでツタ系植物しか植えることができない。

ツタ系植物は、工作物の素材や形状との相性によって良い見え方になるかどうか異なります。また、生育環境や維持管理についても検討が必要となりますので、スペースがないために植えるものではありません。

12. 塀で囲いたい。

敷地内のプライバシーの確保は大切ですが、緑を用いて柔らかに閉じること、プライバシーを確保するための有効な手法です。また人の目に優しく、敷地の開放感を演出するための基本はオープン外構です。どうしても塀を設けたい場合は、塀の外側に植栽を配置する等、緑と塀の位置関係の整理、適切な樹種の選択、植栽帯の地盤高さの考え方等様々な手法の組み合わせを検討してください。

設計する上での注意ポイント

1. 地下埋設部分や、施主施工のものに注意！

素敵な建物や植栽の設計ができて、地下部分である設備配管の埋設位置や、建物が建った後の室外機場所の確認が必要です。植栽の位置と干渉してしまい、せっかくの設計も植えることができなくなる場合もあります。特に、施主の方が別途植栽のみを後施工される場合は、建物際や配管設備の通るところに植栽が干渉しないよう注意してください。

2. 緑地にしたところはすべて緑地面積として算入していい？

屋根や庇があるところや、室外機を置くところは緑地面積に算入できません。

3. 土にすれば緑地面積として算入できる？

“土だけ”では緑地面積に算入することができませんが、水平に見たときに枝張りがあるのであれば、算入できます。基本的には、足元も植栽をしてください。

4. 芝は人工芝でもいいの？

人工芝は緑地面積として算入できません。

5. 緑化ブロックはすべて緑地面積に算入できる？

緑地率が50%以上の緑化ブロックを使用し、面積は50%で計算してください。

6. プランター等の可動式のもので、季節や気分に合わせて緑で演出する場所を変えたい。

四季による変化を感じることができる緑はとても良いものです。ただし、プランター等可動式の樹木は生育に十分な土壌を確保することが難しく、緑地面積としてカウントはできません。道路等の公共から見える場所には必ず地植えの樹木を計画してください。その他の場所で、プランター等による演出を楽しんでいただくことは可能です。

7. 求められている基準を満たすには、高木や中木のみを植えれば良いか。

数値基準を満たすことは必要です。また高木等高さのある樹木は重要な役割を果たします。とはいえ、低木や地被類にも役割があり、植栽帯を彩る重要な要素となります。基準に捉われることなく、良い組合せを検討してください。

樹種選定に迷ったら

地域別

①山麓市街地

地形の高低差を解消するための擁壁等が多くあり、擁壁等と調和のとれた植栽計画が必要となります。また、擁壁の圧迫感を軽減させるために擁壁を新設する際には後退し、擁壁の見え掛かり部分が1.5m以下となるよう後退部分に植栽の配置が必要です。

六甲山系の自然を継承するため、地域に馴染んだ樹種の選定をお願いします。「国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所」六甲山系電子植生図鑑も参考にしてください。

▼ 参考 <https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/index.html>



【一例】

高木	中木・低木
<p>常緑樹：</p> <p>アカマツ、ソヨゴ、アラカシ、ヤブニッケイ、カゴノキ</p> <p>落葉樹：</p> <p>コナラ、クロモジ、ヤマザクラ、アオダモ、ブナ、エノキ</p>	<p>ネズミモチ、イヌツゲ、コバノミツバツツジ、ヒイラギ、ヤブツバキ、コバノガマズミ、アオキ、ムラサキシキブ</p>

その他にもこの地域で見られる樹木



ヒマラヤスギ



ヤマザクラ



コバノミツバツツジ



カンツバキ



擁壁部分は圧迫感の出る直壁とせず、玉石積みになだらかな法面とし、塀等で囲まず、厚みのある植栽とすることで、プライバシーを守りつつも通りに対して潤いと開放感を与え、良好な景観に寄与しています。



擁壁部分を石積みとし、上部に生垣を設け、自然素材による圧迫感の軽減を行っている。さらに建築物までの空間に季節を感じさせる中高木を配置し植栽の間から建築物が垣間見える計画が山手の景観となっています。



高さのある擁壁は石貼りとし、前面に低木を配置することで圧迫感を軽減させています。擁壁の上部には塀やフェンスではなく、生垣を配置することで、緑豊かな通り景観に寄与する計画となります。

②中央市街地、新市街地

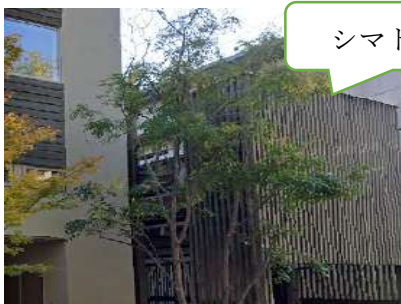
市街地の狭いスペースでは、生長が遅く、剪定しやすい落葉広葉樹を選ぶのがおすすめです。また、足元には低木・地被を組み合わせることで緑を有効に感じることができます。樹木が成長した時に強剪定を行う必要がないスペースの確保、スペースに応じた樹種を選択を行ってください。

高木・中木	低木・地被
エゴノキ、カクレミノ、カツラ、コウヤマキ、スギ、ナツツバキ、ハナミズキ、ヒノキ、ホウキモモ、モウソウチク、ヤマボウシ、ラカンマキ	ヘデラ類、アジュガ、シラン、フイリヤブラン

その他にもこの地域で見られる樹木



シラカシ



シマトネリコ



イロハモミジ



モッコク



クスノキ



ハツユキカズラ



狭いスペースでも様々な樹種や高さの異なる種目をバランスよく通りからよく見える位置に配置することで街角に潤いを与えることができます。



狭いスペースでも、高さのあるシンボルツリーを通りに面して配置することで建物のボリュームが軽減されています。足元には低木を植えているためアプローチ部分のバランスも良くなります。建物と植栽を含めたアプローチ部分を全体的に計画しするようにしましょう。



一つの敷地だけで景観は成り立ちません。狭いスペースでも植栽を設けることで、隣接する緑とつながり、全体として緑豊かな通り景観が生まれます。敷地ごとに少しの緑があることでまちなみが豊かになります。



既存の樹木を生かし、緑豊かな景観を継承している例。新たに高さのある植栽を設けるのはコストがかかります。できる限り今ある樹木を生かした計画とすることで、景観の継承にもつながります。

③海浜市街地

潮風に強い代表的な樹種。

	高木・中木	低木・地被	特殊樹
耐える	オリーブ、アキニレ、イヌビワ、エノキ、クサギ、柑橘類、シダレヤナギ、サルスベリ、ネムノキ	アベリア、アオキ、ヒラドツツジ、ヒサカキ	
やや強い	ウバメガシ、タブノキ、サンゴジュ、スタジイ、マサキ、マテバシイ、ヤブツバキ、ヤマモモ、オオシマザクラ、シマサルスベリ、カイズカイブキ	シャリンバイ、トベラマルバグミ、ガクアジサイ、ハイビャクシンローズマリー、ノシバ	シュロ、トウジュロ
強い	クロマツ、イヌマキ	ハマゴウ、グンバイヒルガオウエディリア、クサトベラ、ウラジロギク、ツワブキ	ソテツ、ヤタイヤシ、ワシントンヤシ、ハマユウ、ニオイシュロラン、バショウ

その他にもこの地域で見られる樹木





アプローチ部分を使い低木、高木をバランスよく配置し、空間をうまく利用している例。たくさんの高木を植える必要はありません。足元に低木、そして1本、もしくは2本高さのある樹木があるだけで建物に彩りを与えることができます。

④芦屋川沿い

六甲山系から大阪湾へとつながる芦屋川沿岸は、河岸のマツやサクラと宅地内（敷際）の緑、御影石の石積等が重なり合って良好な「けしき」をつくり出しており、山の緑を背景に河川を軸とした開放的な空間が広がっています。基本的に敷際には十分な緑量を計画する必要がありますが、敷際の工作物の配置や意匠等に応じて樹種や樹高を適切な選択することが求められます。また、建築物の特徴等に応じて、建築物のどの部分を敷際から垣間見せたいのかについて十分に考慮し、奥行きのあるランドスケープ計画を検討する必要があります。具体的な樹種の選択については、計画地が①山麓市街地～③海浜市街地のどこに位置するかにより、地域に応じた樹種を選択してください。



敷際には御影石の擁壁や煉瓦の門扉などが設けられ、敷地の規模に合わせて建物前面に十分な植栽スペースを設けることで、敷地内の植栽と街路樹の松の木や遠くに見える六甲山とが調和して芦屋川沿いの「けしき」となります。

玄関・アプローチ周り

アプローチ付近や角にシンボルツリーがあると、少ない植栽でもメリハリがついて景観上有効に働きます。シンボルツリーだからと言って一本だけではなく、足元には低木や地被を配置してください。また、常緑樹と落葉樹を組み合わせたり、花の咲くものを植えたりすると季節の変化を楽しめます。

◆ 玄関・アプローチ周りに適した樹木

高木・中木	低木・地被
アオダモ、カクレミノ、コハウチワカエデ シラカシ、ナツツバキ、ヒメシャラ、ソヨゴ、ヤマボウシ、常緑ヤマボウシ	オオムラサキツツジ、キブシ、ミツマタ シャクナゲ、ハギ類



ヤマボウシ



カクレミノ



オオムラサキツツジ



シャクナゲ

手のかかりにくい樹種

植栽を維持するためには、お手入れが必須ですが、お手入れが楽な樹種を選定することも有効です。お手入れが楽な樹種の特徴は3点あり、①生長速度が遅い、②肥料を必要としない、③病・虫害の発生が少ないです。

また、病・虫害は、日照・水・土・風・気温に問題があると発生します。樹木を密に植えることでも病・虫害は発生しやすくなるので、植える間隔も大切になります。一般的には、以下の通りです。

◆ 隣り合う木の必要間隔

高木	中木	低木
3 m以上	1 m以上	0.5m以上

◆ お手入れの楽な代表的な樹種 P.69

	高木・中木	低木・地被
生長が遅い	アラカシ、ヤマボウシ、ウバメガシ、エゴノキ、ソヨゴ、ハナミズキ、ヒメユズリハ、モチノキ、モッコク	キチジョウソウ、シャリンバイ、センリョウ、ハイビヤクシン、フッキソウ、ヤブラン
肥料が不要	アラカシ、イヌツゲ、イヌマキ、ウバメガシ、シラカシ、ソヨゴ、ヒメユズリハ、マユミ、ムラサキシキブ、モチノキ、モッコク、ヤマボウシ、ヤマモモ、ヒノキ	アオキ、アガパンサス、アペリア、キンシバイ、クマザサ、コムラサキシキブ、シャリンバイ、ツワブキ、ナンテン、マンリョウ、ヤブコウジ、ヤブラン
病・虫害に強い	イチイ、イヌツゲ、イヌマキ、ウバメガシ、シラカシ、ソヨゴ、ヒメユズリハ、マユミ、ムラサキシキブ、モチノキ、モッコク、ヤマボウシ、ヤマモモ、ヒノキ	アオキ、アガパンサス、アペリア、キンシバイ、シャリンバイ、ハマヒサカキ、フッキソウ、マンリョウ、ヤマボウシ、ヤブラン、ローズマリー

ハナミズキ



シャリンバイ



群落で考える樹種

樹種の選定をする場合には、木と木の相性も参考にしてみてもいいでしょう。自然界で見られる特に六甲山系の群落を参考にすることで、生育環境のバランスがよい樹種を選定することができます。

	高木・亜高木	低木・地被
シイ・カネメモチ群落	スダジイ、コジイ、アラカシ、ウラジログシ、シラカシ、ツクバネガシ、イスノキ、アラカシ、ヤマモモ	アオキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、カナメモチ、ヤブコウジ、ナガバジャノヒゲ、ベニシダ
アラカシ・カゴノキ群落	クスノキ、アラカシ、ヤマモモ、ヤマハゼ、アベマキ、アカシデ、クロマツ、モミ、スギ、クロガネモチ、ナナミノキ、ノグルミ	ムラサキシキブ、イヌビワ、カゴノキ、ヒイラギ、ヤツデ、ヒサカキ、シロダモ、オオイタチシダ、ベニシダ、ヤブコウジ、ナガバジャノヒゲ、ツタ、チジミザサ
アラカシ・ヒメユズリハ群落	アラガシ、ヒメユズリハ、カクレミノ、ヤマモモ、ナナミノキ、ヤマハゼ、アベマキ、ヤブニッケイ、モチノキ	ネズミモチ、シャシャンボ、シロダモ、ヒサカキ、カナメモチ、クロバイ、ベニシダ、サネカズラ、ジャノヒゲ、ネザサ、テイカカズラ、ツタ
ウバメガシ群落	ウバメガシ、アラカシ、カナメモチ、ヤマモモ、ヒメユズリハ、マルバアオバモ	モチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ウンゼンツツジ、カクレミノ、トベラ、コシダ、ヒトツバ
コナラ群落	コナラ、アベマキ、クヌギ、アラカシ、ネズミモチ、タカノツメ	モチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ヒサカキ、アセビ、コウヤボウキ、ノガリヤリ、シュンラン、チゴユリ、サルトリイバラ

日当たり別樹種

樹木には好みの日照条件があります。一般的には、午前には東側から朝日が、昼前から昼過ぎには南側に強く明るい日差しが、昼過ぎから夕方には西側に西日（より強い日差し）が当たり、北側は終日日が当たりません。このように大きく分類できますが、敷地の条件によって補正を行い、その敷地に適した樹木を選定してください。

	高木・中木	低木・地被
陽樹 （日差しを好む。 主に南側や西側の庭（西側は日差しが強いので中庸樹では葉焼けを起こす可能性がある。））	アオギリ、アキニレ、ウバメガシ、ウメ、カリン、キンモクセイ、クリ、ケヤキ、サクラ類、サルスベリ、シダレヤナギ、シマトネリコ、トウカエデ、ハナモモ、マサキ、モチノキ、モッコク、リンゴ	エニシダ、キリシマツツジ、キンメツゲ、サツキツツジ、シャリンバイ、ドウダンツツジ、トベラ、ハギ類、ハマヒサカキ、バラ類、フヨウ、ボケ、ボックスウッド、ユスラウメ、ローズマリー
陽樹～中庸樹	イロハモミジ、エノキ、クヌギ、ゲッケイジュ、コナラ、スタジイ、ソヨゴ、タブノキ、ツバキ類、トチノキ、ハナミズキ、ブナ、マユミ、モミ、ヤマボウシ、ヤマモモ、	オオデマリ、カシワバアジサイ、カンツバキ、キンシバイ、クチナシ、シモツケ、ハマナス、ヒメウツギ、ヒラドツツジ、フジ、ボタンクサギ、ミツマタ、ユキヤナギ
中庸樹 （陽樹と陰樹の中間で、適度の日当たりと日陰を好む。主に東側の庭）	イチジク、エゴノキ、コブシ、サワラ、ツリバナ、ナツツバキ、ビワ	アベリア、トサミズキ、ビヨウヤナギ、ミツバツツジ、ムラサキツツジ、ロウバイ
中庸樹～陰樹	イロハモミジ、エノキ、クヌギ、ゲッケイジュ、コナラ、セイヨウシャクナゲ、ソヨゴ、タブノキ、ツバキ類、ハナミズキ、ブナ、マユミ、モミ、ヤマボウシ、ヤマモモ、	カシワバアジサイ、カンツバキ、キンシバイ、クチナシ、シモツケ、ハマナス、ヒメウツギ、ヒラドツツジ、フジ、ミツマタ、ユキヤナギ
陰樹 （日差しを嫌い、湿気のある暗い環境を好む。 主に北側の庭）	イチイ、イヌツゲ、クロモジ、コウヤマキ（大人になった成木は陽樹）、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ、ヒノキ	アオキ、アセビ、ジンチヨウゲ、センリョウ、マンリョウ、ヤツデ、ヤブコウジ

高木の足元に適している低木・地被

高木の足元は日陰になるので、陰樹を植えるようにしましょう。ただし、高木を落葉樹とする場合は、冬期にはある程度の日差しが確保できます。

陰樹～半陰樹	アジサイ、アセビ、ガクアジサイ、カンツバキ、キチジョウソウ、クリスマスローズ、ササ類、センリョウ、ナンテン、ハマヒサカキ、ヒイラギナンテン、ヒサカキ、フイリヤブラン、フッキソウ、ヘデラ類、マンリョウ、ヤブコウジ、ヤブラン、リュウノヒゲ
陽樹	アジュガ、アベリア、ツツジ類、キンシバイ、ディコンドラ、ドイツスズラン、ヒュウガミズキ、レンギョウ

アセビ



シモツケ



常緑樹と落葉樹

落ち葉を嫌って常緑樹を選ばれる方がおられますが、常緑樹は1年を通じて葉を落とします。常緑樹は、植栽当初は気にならないですが、数年経つとボリュームが出ます。

落葉樹は、季節の変化を感じることができるため、彩り豊かな表情を楽しむことができます。

常緑樹と落葉樹をバランスよく組み合わせることが大切です。

【常緑樹】

	高木・中木	低木・地被
広葉樹	アラカシ、クスノキ、クロガネモチ、ゲッケイジュ、サザンカ、サンゴジュ、シマトネリコ、シラカシ、ソヨゴ、タブノキ、タイサンボク、ハイノキ、モチノキ、ヤブツバキ、ヤマモモ	フィリアオキ、エニシダ、オオムラサキ、クリシマツツジ、クチナシ、クルメツツジ、サカキ、サツキツツジ、シャリンバイ、センリョウ、トベラ、ヒサカキ、ヒラドツツジ、ナンテン、マンリョウ、クマザサ、ヤブラン
針葉樹	アカマツ、イヌマキ、カイヅカイブキ、クロマツ、ヒノキ、ヒマラヤスギ、レイランドヒノキ	キャラボク、ハイビャクシン、フィリフェラオーレア

【落葉樹】

	高木・中木	低木・地被
広葉樹	アカシデ、アキニレ、アンズ、イヌシデ、イロハモミジ、ウメ、ケヤキ、クヌギ、コナラ、コブシ、サンシュユ、サルスベリ、シダレヤナギ、ソメイヨシノ、ナツツバキ、ハナミズキ、プラタナス、ヤマザクラ、ヤマボウシ	アジサイ、ガクアジサイ、クサボケ、コデマリ、コムラサキシキブ、シモツケ、ドウダンツツジ、ニシキギ、ニワウメ、ヒメウツギ、ヒュウガミズキ、ミツバツツジ、ミツマタ、ヤマブキ、ユキヤナギ、レンギョウ
針葉樹	イチヨウ、カラマツ、メタセコイア、ラクウショウ	—

管理について

緑豊かな良好な景観の形成において植栽は植えるだけでは完成しません。植栽の生長や季節の移り変わりによる新緑、紅葉、落ち葉などの変化も含めて適正な維持管理がなされて初めて良好な景観が形成されるといえます。どんな樹木にも特徴があり、植栽の性質を考慮した灌水や適期適正な剪定が重要となります。

用途別の提案

■ 戸建て住宅、共同住宅

月日の経過とともに植栽は生長します。大きくなりすぎたり、密集しすぎたりしてしまうと害虫の発生や良好な景観とは逆効果になる場合もあります。植栽時にどの程度成長するのか、建物とのバランス等、どの程度の大きさまで生長させればより良い景観となるのか考慮して剪定の長期的な計画を立てましょう。大きくなりすぎないようにするためには、定期的に生長点を切除する芯止めや切り戻し剪定が必要となります。

■ 店舗等の事業所

駐車場に計画される緑化ブロック等は施工後の維持管理に注意が必要です。芝生の生育環境には一定の日照時間が必要となり、車が停車する部分や日照時間が一定数見込めない部分については芝生を健全に維持することが難しくなります。生育環境を考えた配置を検討しましょう。

■ 公共施設

街路樹を含め、広葉樹の紅葉や落ち葉は、季節感を感じることのできる重要な景観要素です。落ち葉による転倒などを未然に防ぐといった安全の考慮をしつつも、坊主切りなどの剪定は避け、四季を感じられる緑豊かなまちなみとなるような維持管理が求められます。

公共施設など、多くの人が訪れ、目に触れる機会が多い施設においては「点検チェックリスト」を作成し、美観の維持及び灌水設備等の問題がないか目視点検ができるような仕組みが効果的になります。

植栽の性格を知り、それぞれに合わせた管理を目指しましょう

前述の通り、樹種によって日差しを好むものや日陰を好むものもあるため、配置計画の時点からの検討が重要となります。また、樹種に応じた定期的な剪定の実施により、日当たりや風通しの環境を整えることも必要となります。剪定のためのスペースの確保も計画段階から検討しておきましょう。また、昨今の異常気象による、特に厳しい暑さが続く夏場には、水不足によって枯れてしまう樹木や強い日差しによる葉焼けなどの発生も多く、こまめな水分管理ができるよう灌水設備を検討するなどしましょう。

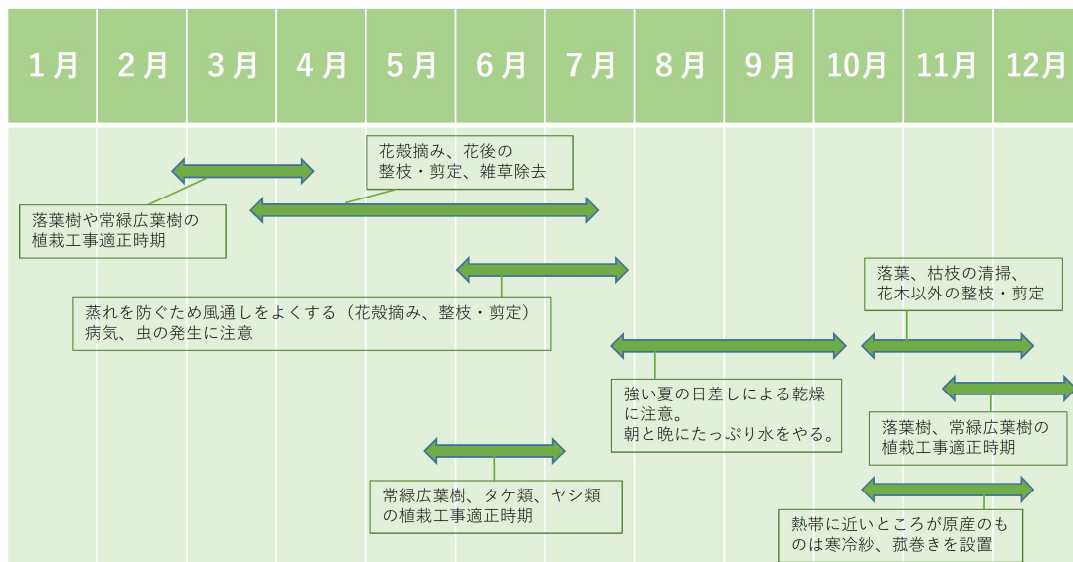
■ 施工後の管理

植栽直後の植物は環境の変化によって弱ってしまっています。植栽直後からの水遣りがとても重要です。水遣りの頻度は、水はけがいい場所とそうでない場所や軒の出付近などでは環境が違ってくるので場所に合わせた水遣りをしていきましょう。

■ 季節の管理

季節ごとに水遣りや剪定を計画的に行いましょう。

季節の管理カレンダー



■ 長期の管理

植栽後1～2年は生長が鈍くなりますが環境が合っていれば植栽後3年もたてば大きく生長していきます。特に、日の当たる南側や西側のボリュームが増し、全体的なバランスが悪くなることが多いので、植栽全体を見てバランスを整える剪定作業を行いましょう。

時間の経過とともに地面は固く締め付けられ水はけが悪くなり、根回りの環境が悪くなることから植物の調子が悪くなる場合があります。適宜、土を耕す等して土の中に空気を入れてあげましょう。

樹木の高さや枝ぶりはある程度のコントロールが可能ですが、幹の太さについてはコントロールが難しいので植栽計画の段階でどのくらいに生長するのか把握しておく必要があります。

さいごに

建物を計画するうえで、植栽計画は後回しになりがちですが、植栽は建物の外観を美しく見せるだけでなく、緑豊かなまちなみの景観形成に大きく影響します。前述したとおり、地域に合った樹種、配置、適切な管理を考慮し、長期的な視点で計画することが重要です。

